

## 霧島山

### 1 火山活動度レベル(平成 17 年 9 月)

新燃岳 : 1 (静穏な火山活動)

御 鉢 : 2 (やや活発な火山活動)

### 2 概 況

新燃岳

火山性地震は少なく、火山活動は静穏でした。

御 鉢

噴気活動は、消長を繰り返しながら次第に収まってきています。

### 3 噴気活動の状況(図 1)

新燃岳

遠望観測では、噴気等は観測されませんでした。

御 鉢

監視カメラで、21 日に火口縁上 100m の噴気を観測しました。

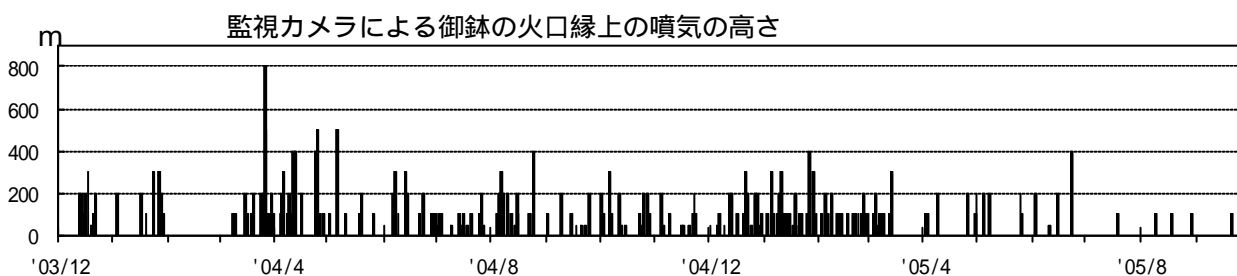


図 1 御鉢火口の噴気の最高高度(2003 年 12 月 1 日 ~ 2005 年 9 月 30 日)

### 4 地震・微動活動の状況(表 1、表 2、図 2、図 3)

新燃岳

火山性地震は 1 回で、新燃岳の西、約 2.5km の深さ 7 km 付近に求まりました。

火山性微動は発生しませんでした。

御 鉢

火山性地震は 1 回で、御鉢の南西約 1 km の深さ 2 km に求まりました。

火山性微動は発生しませんでした。

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、防災科学技術研究所、東京大学、鹿児島大学のデータ等も使用しております。

表 1 新燃岳付近を震源とする最近 1 年間の地震・微動回数(2004 年 10 月～2005 年 9 月)

2004～2005 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
地震回数	2	5	10	5	6	2	5	4	1	5	4	1
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 2 御鉢付近を震源とする最近 1 年間の地震・微動回数(2004 年 10 月～2005 年 9 月)

2004～2005 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
地震回数	16	22	4	2	8	5	2	0	4	4	4	1
微動回数	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

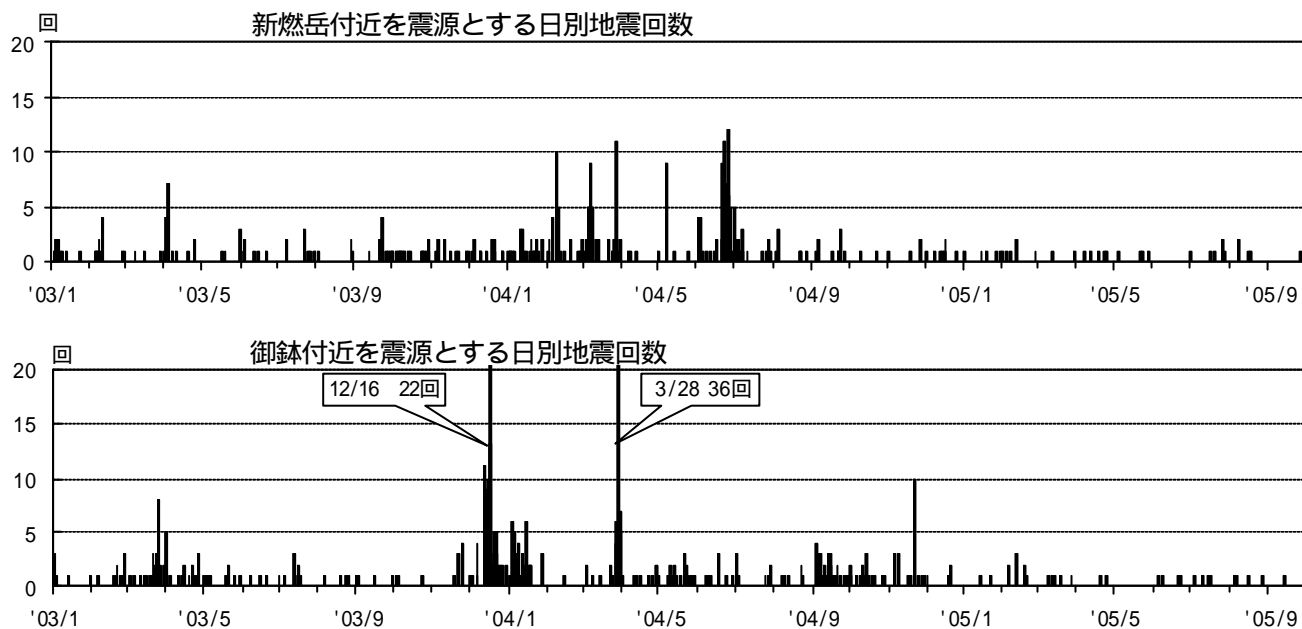


図 2 火山活動経過図(2003 年 1 月 1 日～2005 年 9 月 30 日)

- 新燃岳・御鉢ともに火山性地震の少ない状態が続いています。



## 5 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に対応する変化はありませんでした。

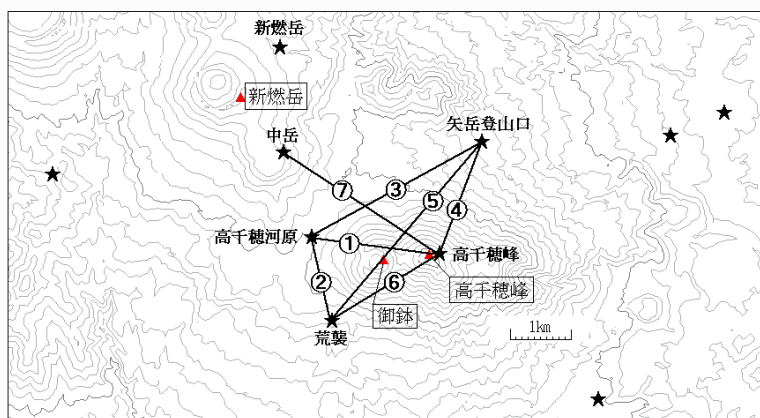
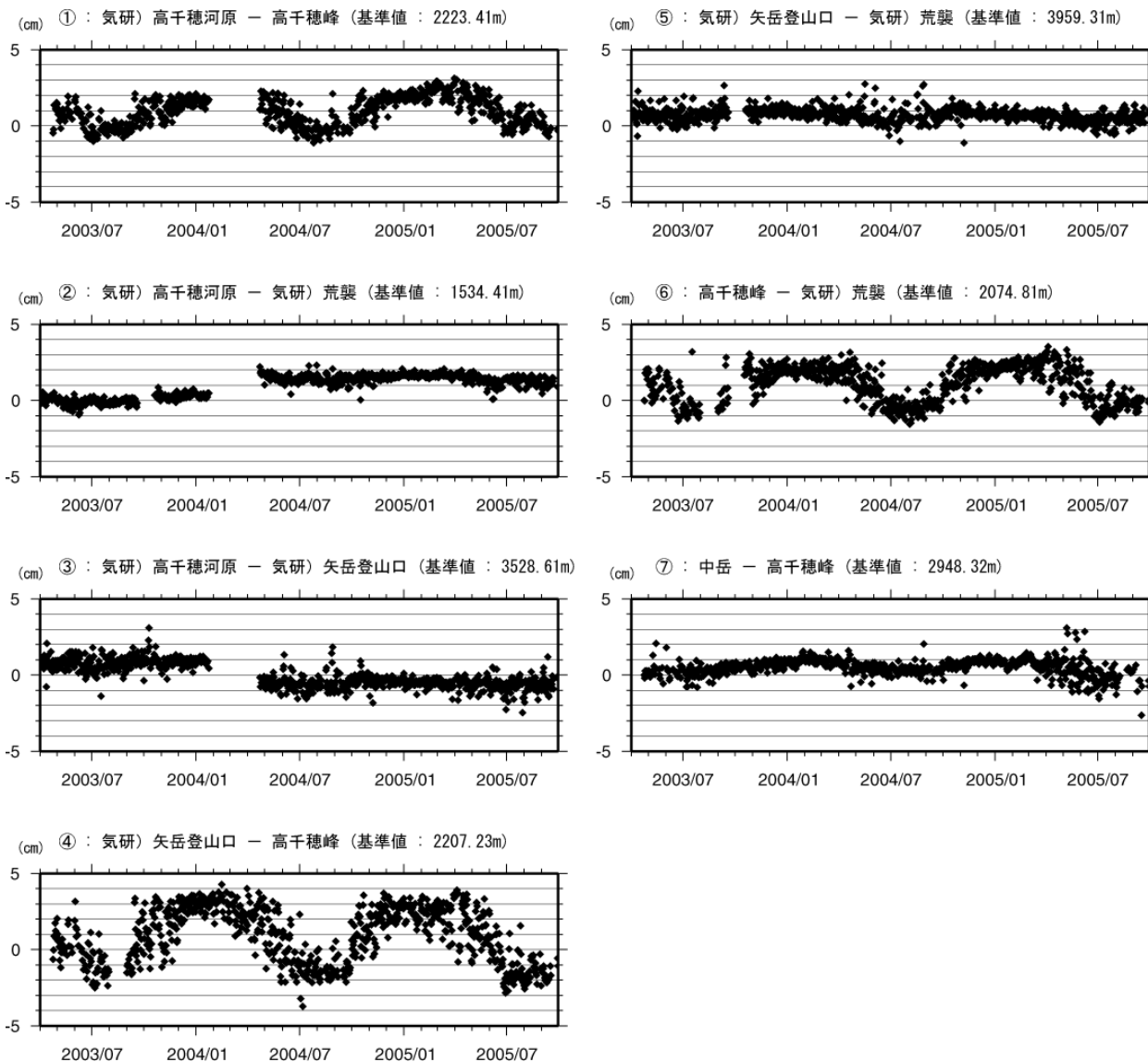


図5 GPSによる基線長変化(2003年4月1日~2005年9月30日)  
基線長変化グラフの空白部分は欠測

## 6 機動調査観測の結果

26～30 日にかけて機動調査観測を実施しました。御鉢火口内の噴気孔(T8、T9)からは、白色で少量の噴気が出ていました。

噴気の様子は次のとおり

T8：白色、高さ 30m

T9：白色、高さ 10m

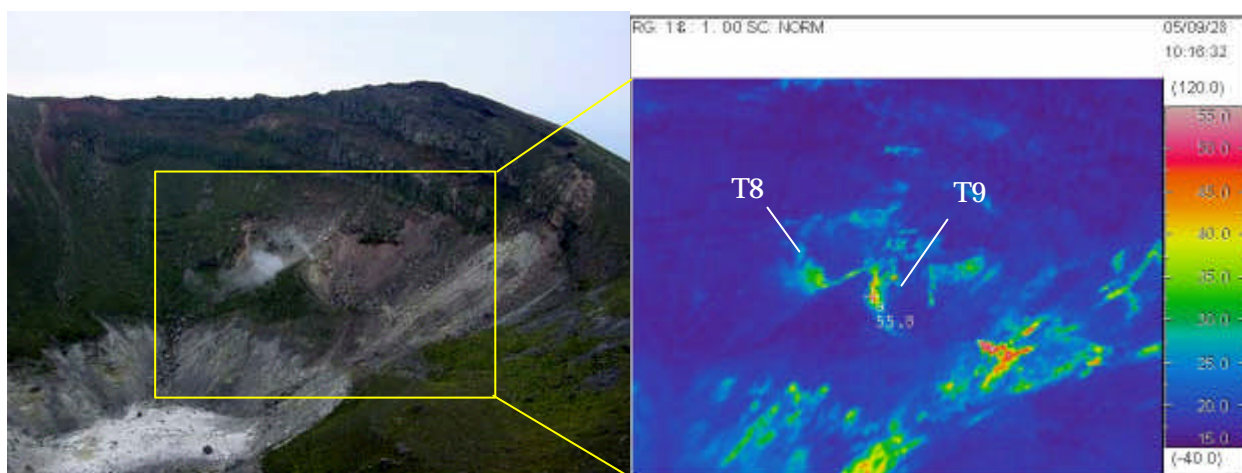


写真 1 2005 年 9 月 28 日に御鉢火口北東側から撮影した可視映像(左)と熱映像(右)

- ・赤外熱映像装置による観測では、T9 噴気孔の温度は 55.8 で前回(53.8 : 2005 年 3 月 25 日)と大きな変化はみられませんでした。

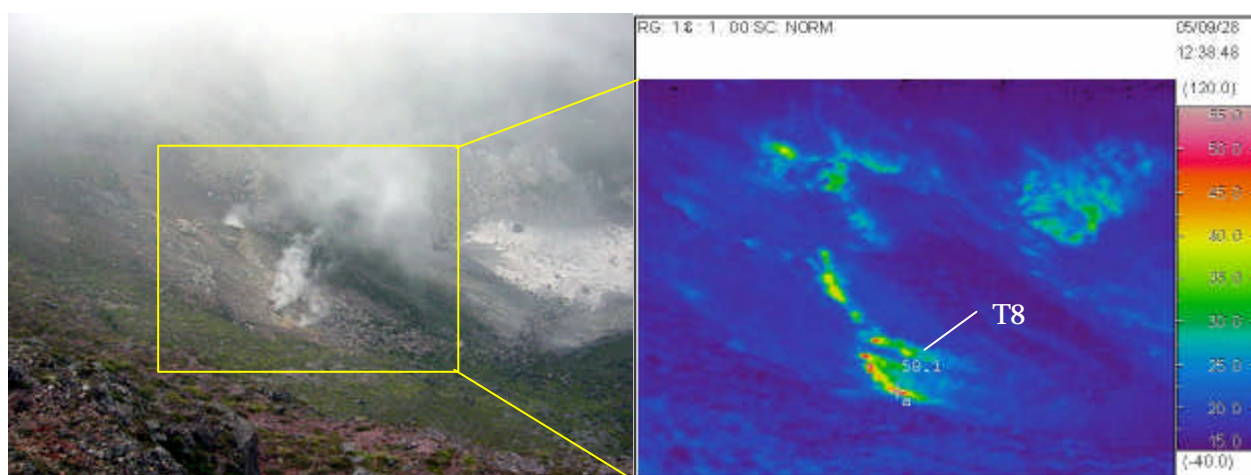


写真 2 2005 年 9 月 28 日に御鉢火口南側から撮影した可視映像(左)と熱映像(右)

- ・赤外熱映像装置による観測では、T8 噴気孔の温度は 58.1 で前回(61.3 : 2005 年 3 月 25 日)と大きな変化はみられませんでした。

(熱映像は赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。)

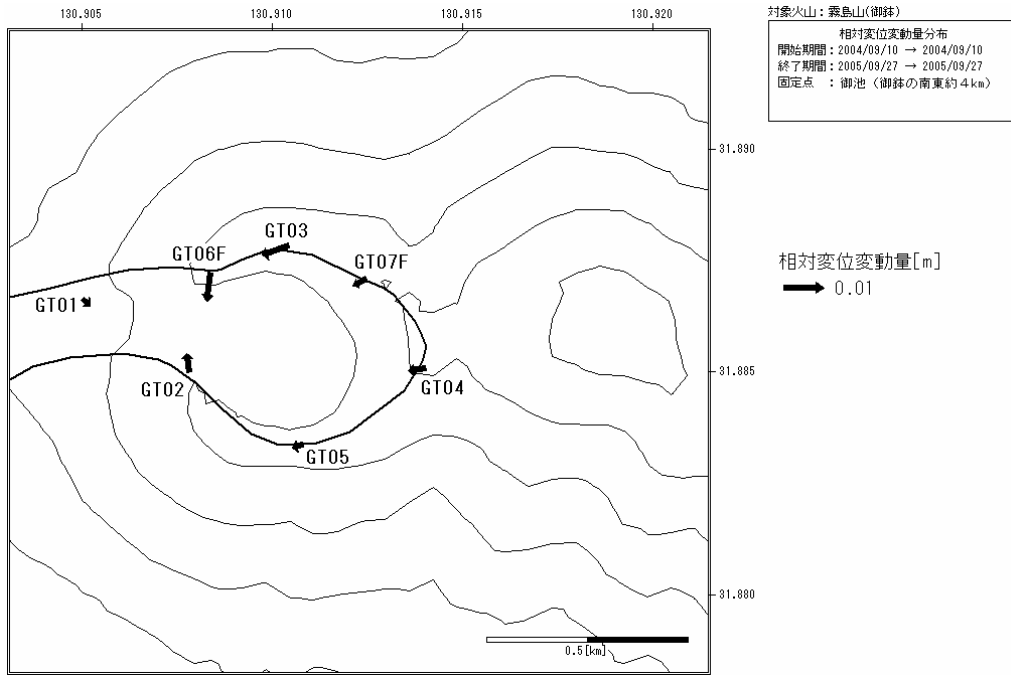


図 6 御鉢周辺の GPS 繰り返し観測による変位ベクトル 2004 年 9 月～2005 年 9 月)

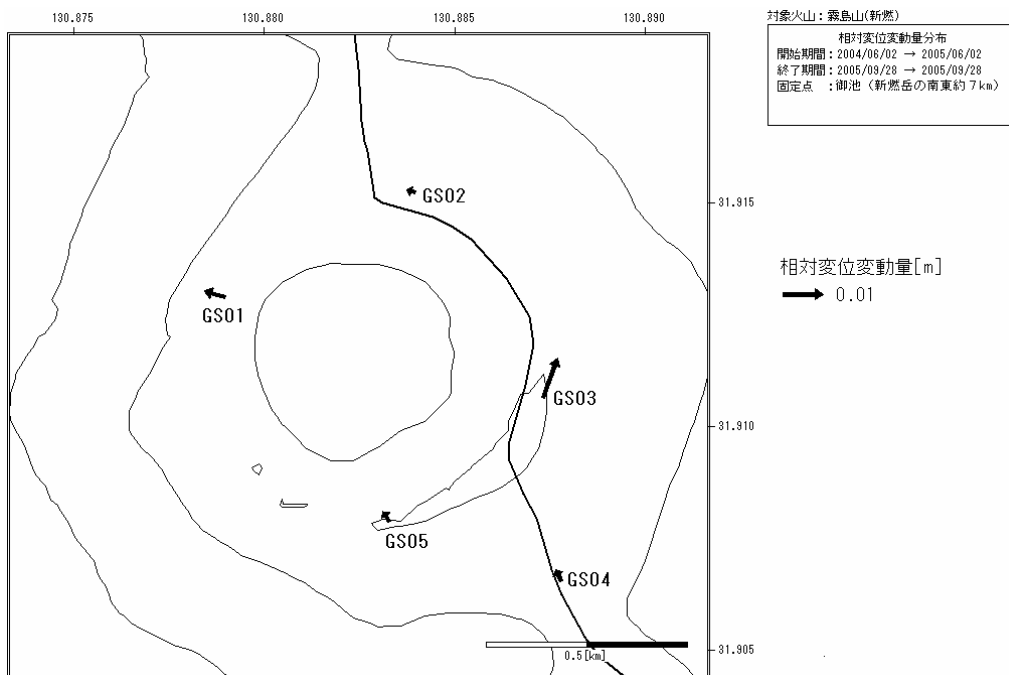


図 7 新燃岳周辺の GPS 繰り返し観測による変位ベクトル 2004 年 6 月～2005 年 9 月)

GPS 繰り返し観測では、火山活動に対応する変化はありませんでした。



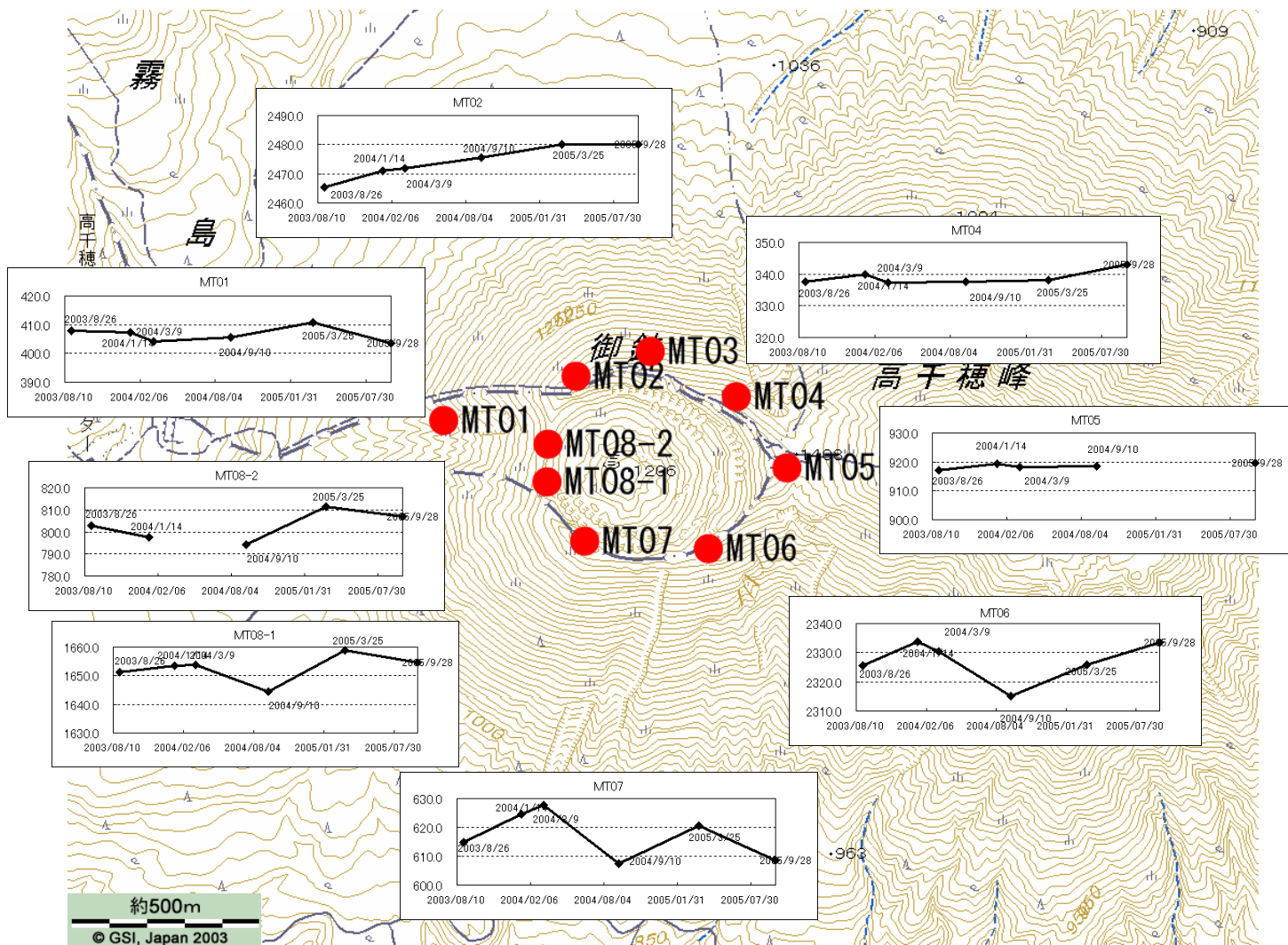


図 8 御鉢周辺の全磁力観測結果

- ・ 御鉢火口南側の観測点は地形の影響を受けていると考えられます。
- ・ その他の観測点では、火山活動に起因する変化は認められません。

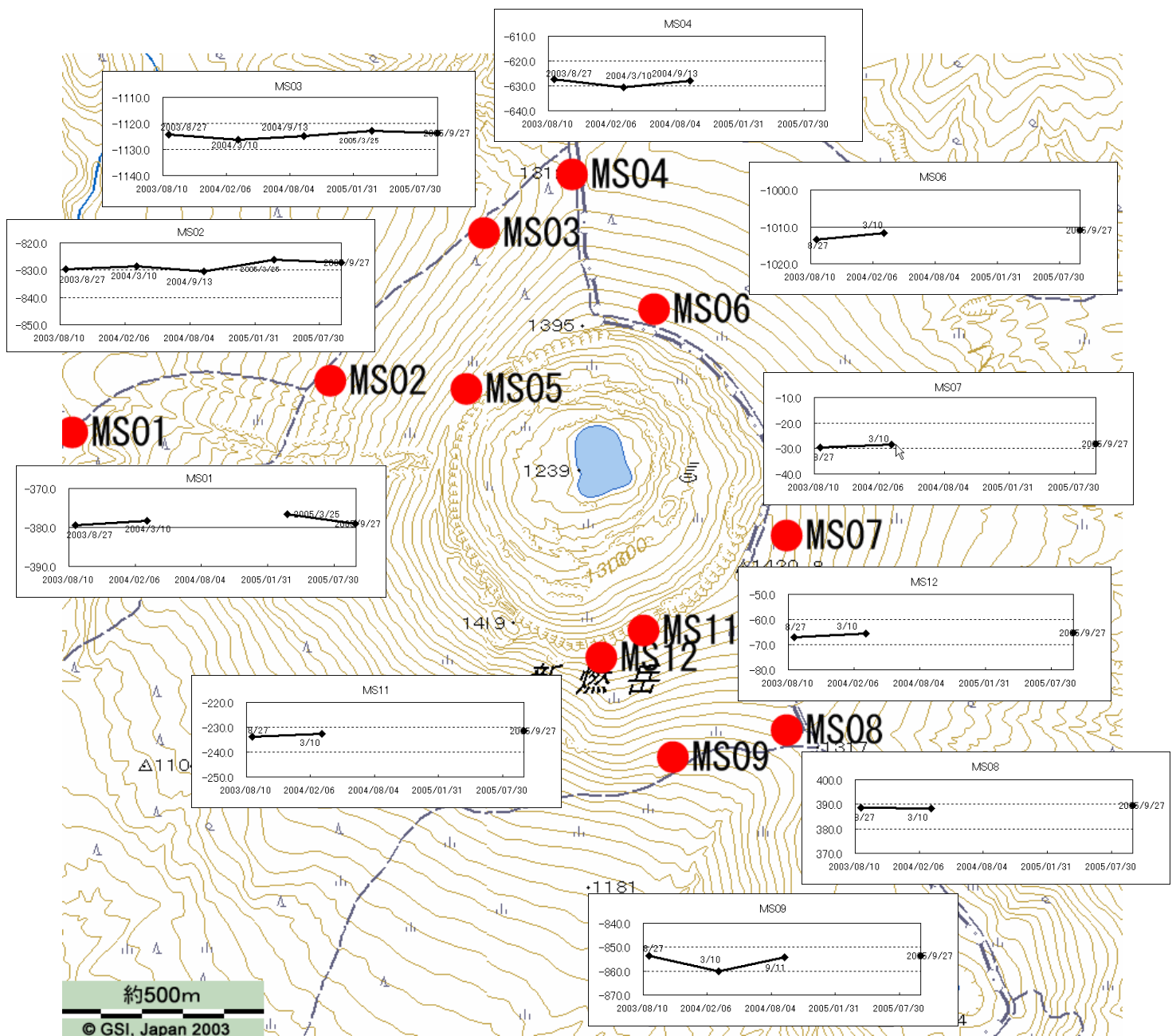


図9 新燃岳周辺の全磁力観測

- ・ 火山活動に起因する変化は認められません